

2013年12月24-28日(日) 香港
アジア ジュニア合宿

初めてのアジアジュニア合宿

9月末、香港のパトリックからアジア地区のジュニア合宿の構想が伝えられた。1990年代の半ばから、日本と香港のジュニアはほぼ2-3年ごとに相互に合宿を開催してきた。日本では概ね夏に、香港では概ね年末に開催されている。本格的な森のトレインがほんのりない香港にとって、日本は身近にテクニカルなオリエンテーリングができるもっとも近い国であった。一方、かつて力の差は一方的だったが、最近ではスプリントやスピードの出るレースを中心に香港勢も力を高めている。また、レースでヨーロッパに遠征することの少ないジュニアにとっては、手頃に海外遠征気分を味わい、異なる文化と環境の中でオリエンテーリングを実践するよい機会となる。双方にとってのメリットが、長い間この合宿が定期的に行われてきた理由だろう。

今年は初めてアジア地区のジュニア合宿として実施することになり、中国からは3名、台湾からは10名の参加があった。日本でも同時期には毎年ナショナルチームやトータスによるジュニア向けの合宿が行われているが、国際交流の場に日本が参加しないのも残念だ。そう思い10月に日本のジュニアに募集をかけたところ、3名の応募があった。東海高校の稲森剛、麻布中学校の小崎舜真、横山一石。稲森は来年のJWOCの参加も視野に入れての遠征だ。

香港の企画に応じて、JOAでも強化部の寺嶋が中心となり遠征準備を整えた。また、村越が、出発から帰国まで遠征に帯同することになった。

スケジュール

12月24日: 14:00 集合。

フリーフィングの後、アイスブレイキング、地図コンタクトを促進するためのライン0とコントロール発見/位置決め

25日: スプリント選手権(WRE)

26日: ミドル大会(WRE)

27日:

スピードとナビゲーションの精度の切り替えを意識したアタックポイント0、ウィンドウ0

28日: 2人組リレー

この他に夜には、オリエンテーリングの技術とそれに対応したトレーニング方法、フィジカルトレーニングの方法、レース中のビデオを見ながらの技術分析、などのレクチャーが行われた。これらのレクチャーは地元香港はもちろん、日本からコーチとして参加した村越、台湾のジミー・チェン博士など国際色豊かに行われた。

また25日にはクリスマスパーティー、27日にはバーベキューが行われるなどジュニア対象の合宿らしく、交流を意図したプログラムも充実していた。クリスマスパーティーでは、6人ずつのチームに分かれて歌やゲームを提供し、国境を越えて盛り上がった。バーベキューの行われた27日は、香港ではありえないくらい息が白くなる寒波が訪れていた。なかなか焼けない香港風バーベキューを食べるには、うってつけとは言えない気候ではあったが、それも香港らしさとして堪能できた。

日本からのジュニアの参加は3人と、多くはなかった。女子がいなかったのも残念だった。それでも稲森、小崎、横山は積極的にトレーニングに参加し、交流を図った。高校生はともかく、英語も流ちょうとはいえない中学生が、練習はともかくレクチャーについてこられるだろうか。交流になるだろうか。遠征前は一抹の不安はあったが、訳の手助けを借りながらも熱心にレクチャーを聞き、演習に参加したり、同年代の子どもたちと言葉など無関係にじゃれ合っている姿が見られた。こうした機会を継続的に提供することこそが、ごく自然にグローバルに活躍する選手の基礎を作ってくれるのではないかと思う。



今回遠征した3人(前列中央から右にかけて、小崎舜真、横山一石、稲森剛。左側か

ら後ろを取り囲んでいるのは台湾からの大学生選手。スポーツ系の大学生で、また読図の面では課題が多いが、体力レベルは高い。撮影の日は最終日で、二人組でのリレーが行われた。中学生小崎と横山が彼女たちと組んだので、いっきに親しくなった。



稲森が香港のパートナーに、リレーで回ってきたコントロールを伝えているところ。うしろでは小崎と横山がそれぞれのパートナーを待つ



スプリントは中心地からフェリーで40分ほど離れた小島の町中で、ミドルは山上の緩斜面で行われた。猥雑な街路を使ったトリッキーなスプリント、高層ビルを眺めながらのオリエンテーリング、いずれも香港らしさが堪能できた

(村越 真)